グリップヒーター HG115/120/125　取扱説明書

JPHAN530A01、B01、C01

このたびは本商品をお買い上げいただき、有難うございます。
正しく取り扱いいただき、末永くご愛用いただけますようにお願い申し上げます。
また本書は大切に保管してください。

安全上の注意事項

作業に始める前に本書を必ず熟読いただき、記載事項を厳守して作業を行ってください。

⚠警告　※パッケージ、取扱説明書の注意事項や内容を無視してご使用し、重大な事故や損害が発生した場合でも弊社は賠償等の責は一切負いかねます。

・本商品はパッケージまたはWEBページに記載された適合車種以外への使用はしないでください。
（最新の適合車種は弊社WEBページでご確認ください）
また、本商品はすべての車両への取り付けを保証しておりません。車種やお客様の使用状況によっては取り付けできない場合がありますのでご了承ください。

・12V車両専用です。6V車両や24V車両などには使用しないでください。。

・取り付けや配線ミスにより発生いたしました破損・不具合等については保証の対象外となります。

・皮膚に本商品の両面テープを貼らないでください。

・本商品の取り付けには両面テープを使用しますが、両面テープでの完全な密着は不可能ですので、使用している間にはがれが生じる可能性があります。定期的なチェックを行い、走行中にはがれないようご注意ください。また、両面テープの性能を発揮させるため、装着後24時間は走行を控えてください。両面テープが浮いてしまいそうな箇所は、両面テープが密着するようにテープ等で押さえ、24時間後にそのテープを外してください。

・必ず走行前にスロットルが正常に作動するかどうか、手を離した状態でスロットルが確実に全閉まで戻ることを確認、点検を行ってください。

・本商品を取り付ける際には使用する純正部品および車両各部に欠損・損傷が見られた場合はその部品の再使用を避け、新しい部品に交換してください。そのまま使用していると重大な事故等につながる恐れがあります。

・取り付け後は走行前に各部に異常がないか毎回点検を行ってください。

・本商品の脱落がないように確実に取り付けてください。また作業中および使用中についたキズ等については保証の対象外になります。あらかじめご了承してください。

・取り付け後約100km走行しましたら各部を点検し、ネジ部等の増し締めを行ってください。その後、約500km毎に必ず点検して行ない、同様に増し締めを行ってください。

・走行中に異常が発生した場合は直ちに車両を安全な場所へ停車し、異常箇所を点検してください。正常に機能しない場合にはご使用をおやめください。

＜グリップ温度について＞

グリップヒーターは非常に高温になりますので、素手でのご使用はお止めください。レベル5や4などの高レベルの状態での常時使用は絶対に行わないでください。バッテリートラブル、やけどの恐れがありますので、高レベルは初期の急速暖め用のみのご使用としてください。
また、レベル1や2などの低いレベルでの使用時でも、長時間の連続使用や使用状況によっては、低温やけどをしてしまう可能性があります。そのため、長時間の連続使用時にはグリップヒーターを30分以上使用しないで一旦スイッチを切るなどをしてください。
また、グローブ装着時でも同様に低温やけどをする恐れがありますので、ご注意ください。

＜バッテリーについて＞

125CC以下の車両のような発電容量が低い車両への取り付けにはご注意ください。充電不足になってしまい、バッテリートラブルを引き起こすことがあります。また、長時間の暖機運転を行うとバッテリーを消費してしまい、商品が正常に動作しなかったり、バッテリー上がりを起こしてしまいます。発電容量の低い車両には、本商品では最大出力設定を行ない、車両に適した最大出力値に設定することで、グリップヒーターの取り付けによる消費電力が多くなっても、バッテリーへの負荷を減らすことができます。走行前や長期保管した車両にはこまめにバッテリーをチェックしていただき、メンテナンスを行ってください。

＜重要＞取り付ける前に必ずお読みください。

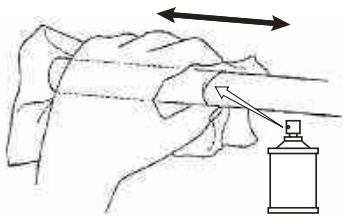
HIDキットや社外品のイグニッションコイルなど高電圧ノイズが出る商品と同時に装着しないでください。高電圧ノイズによりデジタル回路に悪影響を及ぼし、メーターの誤表示、最悪の場合には故障の原因になる恐れがあります。そのため、適合は電装系が**全てノーマル車のみ**となっておりますのでご注意ください。**電装系がノーマルではない車両に取り付けした場合、本商品が故障しても保証の対象外となり、一切の保証はできません**ので、ご注意ください。また、本商品は完全防水ではなく、防滴構造となっております。通常の雨程度であれば内部に水が浸入することはありませんが、水中に落としたりして水没させると内部に水が浸入してしまいますのでご注意ください。

●取り付ける前に

・バッテリーのマイナス端子を取り外して作業してください。

・作業が終わったら、マイナス端子は元に戻してください。

・車両のサービスマニュアルを参考にして、左右のグリップを取り外して、本商品を取り付けする部分の汚れをパーツクリーナーなどを使用して、取り除いてください。



●取り付けについて

①配線の接続について（図①）

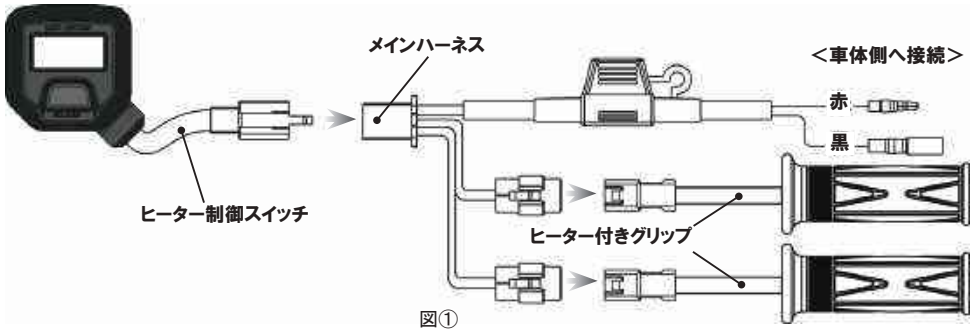
グリップヒーター側のギボシはφ3.5（ホンダ車サイズ）となっております。
車体側と接続する場合は付属しているギボシセットを使用して接続してください。また別途、車両別取り付けキットに同梱されている説明書をご確認のうえ、専用取り付けハーネスなどを使用して接続してください。

＜配線＞

・黒（アース線）・・・適切なアース線が見つからない場合には、フレームなどに直接アースしてください。
（※SUZUKI車の中にはフレームアースが無い車両がありますのでご注意ください）

・赤（DC12V電源線）・・・キーONでDC12Vの電圧がかかる配線に接続してください。

※車体に取り付けする前に、ハーネス、左右グリップ、スイッチを仮接続してグリップヒーターの動作確認をしておきます。問題なく動作すれば、グリップとスイッチなどは一旦ハーネスから外しておきます。



図①

※付属しているエレクトロタップは配線を簡単に接続できて便利ですが、接続不良のトラブルが起きやすい部品です。特に走行振動に弱いので、使用する場合には配線テープなどで揺れないようにしてください。
できるだけエレクトロタップは使わないようにして、ギボシでの接続をお勧めします。



2024.06.19

＜グリップヒーターの取り付け＞

●NOTE●

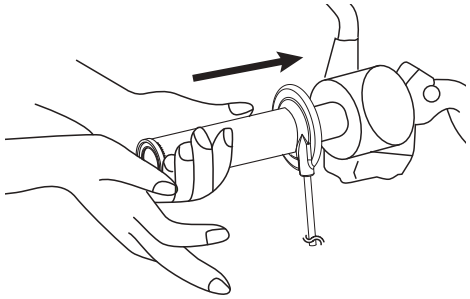
ヒーター付きグリップですが、内径の小さい方が左側用で、大きい方が右側用（スロットル側）です。グリップとハンドルやスロットルパイプとのクリアランスが大きい場合には、付属のアルミシールをハンドルやスロットルパイプに貼ってクリアランスを狭くし、グリップが回らないようにしてから固定してください。または別売りの接着剤を使用して固定してください。

●注意●

車両についているスロットルパイプにグリップのズレ止め用突起（凸）がある場合には、すべて削り取ってください。グリップがスムーズに入るようにきれいにしてください。無理にグリップを押し込むと内部の熱線が断線してしまう恐れがありますので、絶対にしないでください。

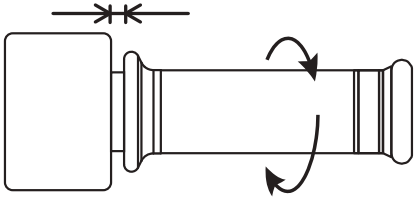
付属のアルミシールを使ってグリップヒーターとハンドルのクリアランスを狭くし、グリップが回らないようにしてから固定してください。

アルミシールではなく接着剤でがっちり接着したい場合には、**コニシ製ウルトラ多用途**などの耐熱性のある接着剤をご使用してください。



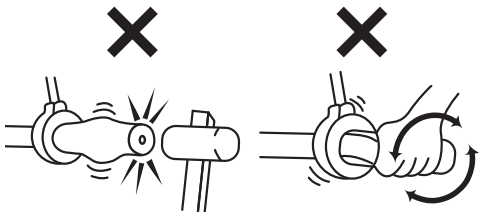
同時にスロットルハウジングとグリップのクリアランスを確認してください。

※こちらのクリアランスが少ない場合は、スムーズなスロットル操作が行なえない可能性がありますので、ご注意ください。



●注意●

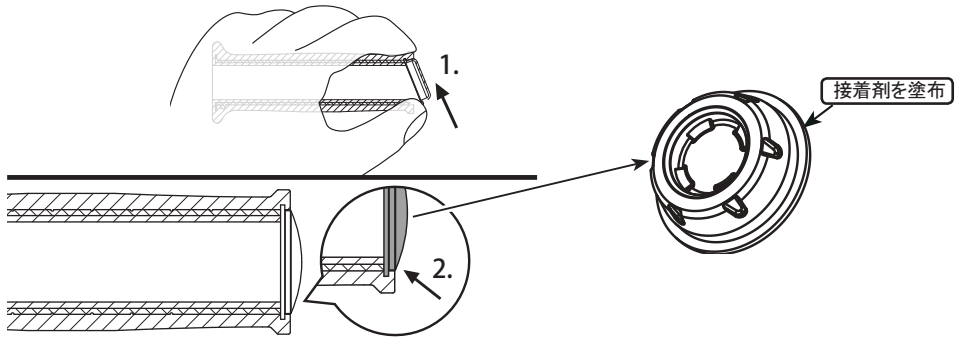
取り付ける際に、ハンマーなどで端部を叩いたり、無理にグリップを押し込むと内部の熱線が断線してしまう恐れがありますので、絶対にしないでください。



＜バーエンドの取り付け＞

本商品は純正のバーエンドがそのまま取り付けできるようになっております。
別梱包の車両別取り付けキットにワッシャーおよびスペーサーが同梱してある場合があるので、そちらを参考にしてバーエンドを取り付けをします。

また、純正バーエンドを使用せず、本商品に付属のエンドキャップを使用する場合には、接着剤（別売り）を使ってグリップに固定してください。



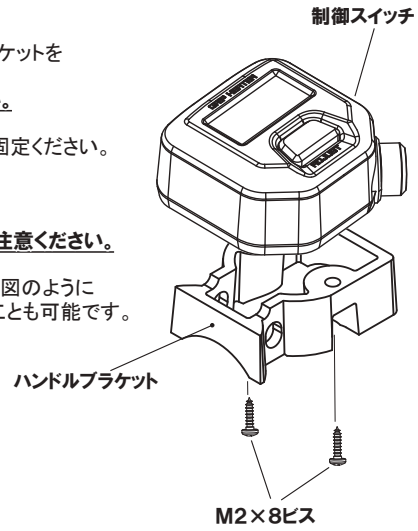
②ヒーター制御スイッチの固定について

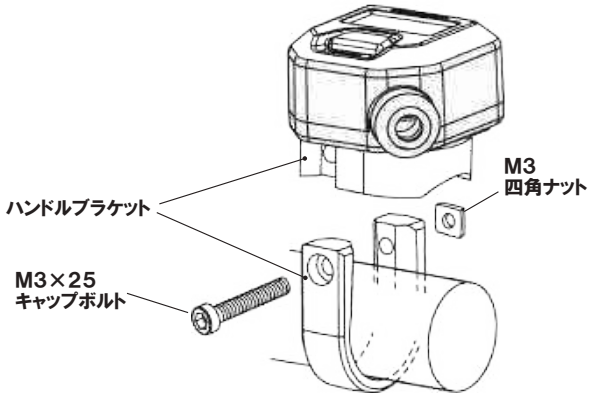
付属のM2ビスを使用して、右図のように制御スイッチにブラケットを固定してください。
※締めすぎると空回りして固定できなくなるのでご注意ください。

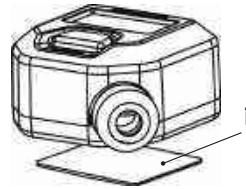
そのあとで、下図を参考にしてハンドルやマルチバーなどに固定ください。
＜規定トルク＞
M3キャップボルト・・・0.2N・m

※四角ナットは非常に小さくて、開封時に無くしやすいのでご注意ください。

また、ハンドルやマルチバーで固定できない場合には、右下図のように両面テープなどを直接、制御スイッチに貼り付けて固定することも可能です。







2023.06.06

③ヒーター制御スイッチの動作手順について



イグニッションキーをONの位置に回すと、
LEDバックライトが点灯し、電圧を表示します。
※このとき、まだ加熱は開始していません。

＜スタートアシスト機能オフの場合＞
ボタンを一回押す。
→前回イグニッションキーをオフにしたときに
記憶されたレベルで加熱を開始します。

※加熱レベルを変更して、数秒間保持
しないと加熱レベルは記憶されません。

＜スタートアシスト機能オンの場合＞
ボタンを一回押す



設定した“スタートレベル”で加熱を開始し、
設定した“アシスト時間”経過後、自動的に
設定した“エンドレベル”に移行します。

“スクロール”

●NOTE●
スタートアシスト機能が働いているとき
は左側のメモリが上下に1～5まで
スクロールします。

ボタンを一回押す、またはアシスト機能終了時



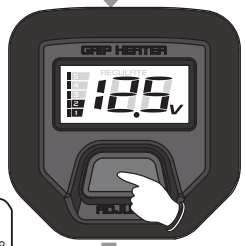
左側のメモリがスクロール状態
（スタートアシスト機能オン）で
ボタンを1回押すとスタートアシスト機能が
終了します。
このとき、設定したエンドレベルになります。

ボタンを一回押す



ボタンをもう1回押すとレベルがさらに
1つ下がります。レベル1の次は OFF
で、その次はレベル5になります。

●NOTE●
レベルは1～5の5段階で、5が最大です。
レベルバーが全部消えるとヒーター OFF
です。



ボタンを一回押す

④ヒーター制御スイッチの設定について
（1．LED輝度調整、2．レギュレート機能、3．最大出力、4．スタートアシスト機能）

1．LED輝度の設定（初期設定値：5）
バックライトの明るさを5段階で調整可能となっております。
＜設定方法＞



制御スイッチに電源が入っている状態で、ボタンを3秒以上長押しすると、
電圧値ではなく”ILL”の文字が点滅し、LED輝度調整ができる状態に
なります。

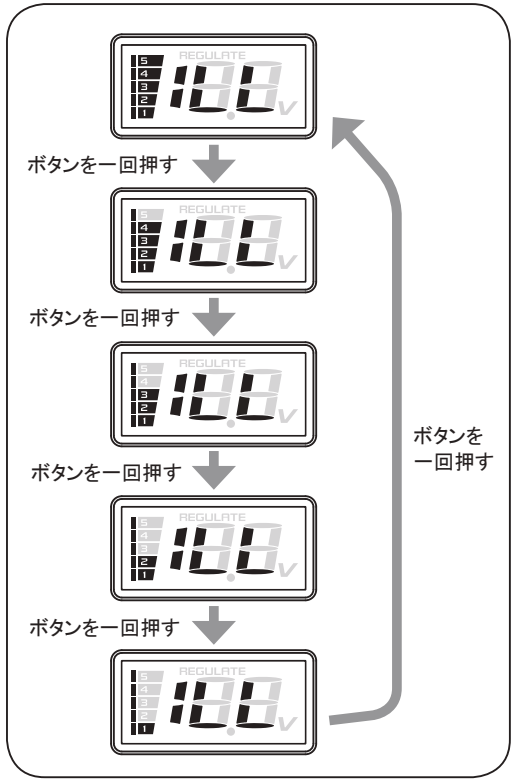
その後、ボタンを短押しすると輝度レベルが5段階で変わります。

ボタンを長押し
（3秒以上）



“点滅”

ボタンを短押し



ボタンを長押し
（3秒以上）

＜レギュレート機能設定へ＞

ボタンを1回短押しすることで、輝度レベルが上図のように
“5→4→3→2→1→5→4・・・・”のように変更されます。
お好みの輝度レベルに設定が終わったらボタンを3秒以上長押しして、
次の設定（レギュレート機能設定）に変わります。

●NOTE●
レベルは1～5の5段階で、5が最大です。

2021.04.22

2．レギュレート機能の設定（初期設定値：11.4V）

レギュレート機能とは、取り付けた車両の電圧低下に追従してグリップヒーターへの通電量を制限する機能です。
設定した電圧以下になった場合にヒーターの出力を制御して車両の電圧がこれより下がらないようにします。
電圧が上がってくれば、自動的に元のレベルで暖め始めます。

＜設定方法＞



“点滅”

制御スイッチに電源が入っている状態で、ボタンを3秒以上長押しすると、
電圧値と”REGULATE”の文字が点滅し、レギュレート機能が働く下限電圧
の設定画面に入ります。

その後、ボタンを短押しすると電圧値が0.1V単位で変わります。

設定したい電圧値になったら、ボタンを3秒以上長押しして、
次の設定（最大出力設定）に変わります。

設定した電圧以下にならないように、ヒーターの出力を自動的に制御します。

●NOTE●
調整範囲は10.0V～13.0V（0.1V単位）です。

ボタンを長押し（3秒以上）

3．最大出力の設定（初期設定値：レベル5→100%、レベル1→20%）

発電容量の低い車両などには、グリップヒーターの最大出力値を減らすことで車体への負荷を減らすことができます。
“レベル5の出力”“レベル1の出力”をそれぞれ設定しておけば、車両に適したグリップヒーターの設定になります。
※車両によって適切な設定が異なりますので、それぞれの車両に合わせた設定をご自身でお選びください。
＜例＞“レベル5は50%の出力”で“レベル1は20%の出力”にする。

“点滅”



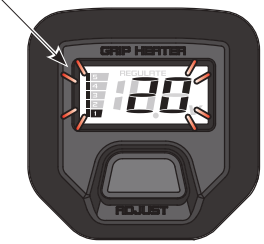
レギュレート機能の設定から、さらにボタンを3秒長押しすると、
最大出力の設定画面に入ります。
その後、ボタンを短押しするとレベル5における加熱出力値を100～
50%で変更できます。設定したい出力に合わせてから、ボタンを
3秒以上長押しして“レベル1の出力設定”へ移動します。

＜例＞“50”に設定する。（50%の出力）

●NOTE●
調整範囲は50～100%（10%単位）です。

ボタンを長押し（3秒以上）

“点滅”



つぎは、レベル1の出力設定になります。
その後、ボタンを短押しするとレベル1における加熱出力値を
50～10%で変更できます。ただし、最大値は前項で設定した
レベル5の出力設定値－20%までしか設定できません。
（レベル5を50%にした場合、レベル1は30～10%の調整幅です。）
設定したい出力に合わせてから、ボタンを長押しするとスタートアシス
ト機能の設定画面に戻ります。

＜例＞“20”に設定する。（20%の出力）

●NOTE●
調整範囲は50～10%（10%単位）です。

ボタンを長押し（3秒以上）

●NOTE●
レベル2～4の出力については、設定したレベル1、5の値から均等割りになります。
例）レベル5__50%、レベル1__20%→→→レベル4__42.5%、レベル3__35%、レベル2__27.5%
また、初期設定値は
＜レベル5__100%、レベル4__80%、レベル3__60%、レベル2__40%、レベル1__20%＞
になります。

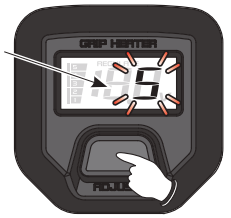
4．スタートアシスト機能の設定（初期設定値：OFF）

スタートアシスト機能とは、エンジン始動時にだけ加熱設定を高くして素早く暖める機能です。
“アシスト時間”“スタートレベル”“エンドレベル”を設定しておけば、キーON時にボタンを1回押すだけで
設定した通りに加熱します。

＜例＞“レベル5”で“5分間”暖めてから、その後“レベル3”に下げる。

“点滅”

“アシスト時間”



前項の出力設定（レベル1）の設定から、さらにボタンを
3秒以上長押しすると、スタートアシスト時間の設定画面
に入ります。
その後、ボタンを短押しすると時間（分）が変わるので
設定したい時間に合わせてから、ボタンを長押しします。

＜例＞“5”に設定する。（5分間）

●NOTE●
調整範囲はOF、1分～20分（1分単位）です。
OFを選ぶとスタートアシスト機能オフ（使用しない）
の設定となります。
OFを選ぶと次項に進まず、通常画面へ戻ります。

ボタンを長押し（3秒以上）

“点滅”

“スタートレベル”



次は、スタートレベルの設定画面に入ります。
ボタンを短押しするとスタート時の加熱レベルが変わるので
設定したい加熱レベルに合わせてから、ボタンを長押し
します。

＜例＞“5”に設定する。

●NOTE●
調整範囲は［3］～［5］です。

ボタンを長押し（3秒以上）

“点滅”

“エンドレベル”



次はエンドレベルの設定画面に入ります。
スタートアシストが終わったときにいくつの加熱レベルにする
か、ボタンを短押しして設定したいレベルに合わせます。
その後、ボタンを長押しして通常画面へ移動します。

＜例＞“3”に設定する。

●NOTE●
調整範囲は［0］～［4］です。
※スタートレベルより高いレベルは選択できません。

⑤レギュレート機能動作時について

設定した電圧以下になった場合にヒーターの出力を制御して車両の電圧がこれより下がらないようにします。
この状態になると電圧値、選択しているレベルゲージ、“REGULATE”の文字が点滅します。
電圧が上昇して、設定した電圧以上になれば、元のレベルで加熱します。電圧値が上がってこなければ、
どんどん出力が低下して、最終的には暖まらなくなります。

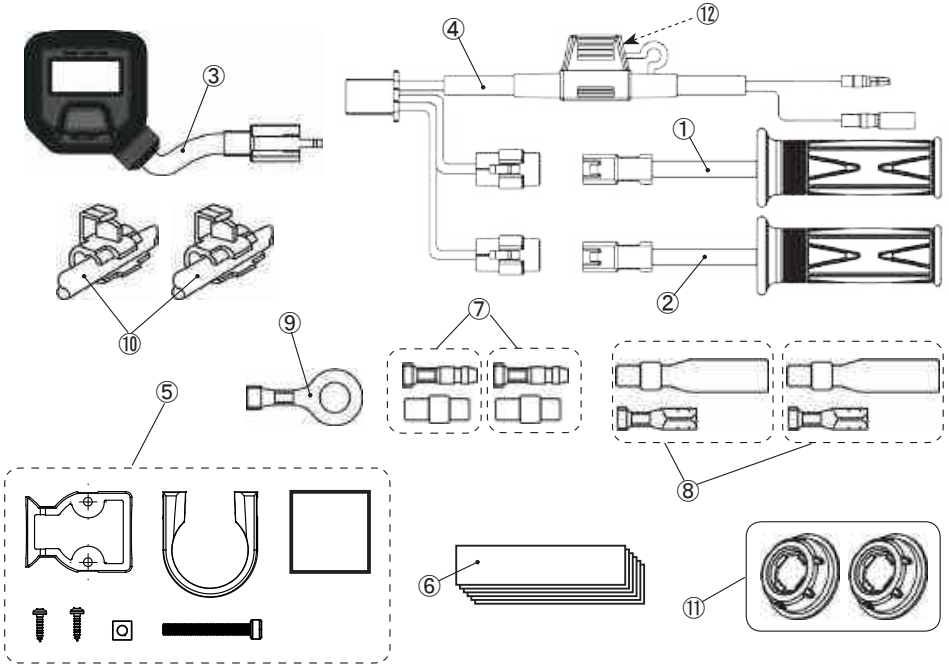
REGULATE

“点滅”



2021.04.22

●構成部品について



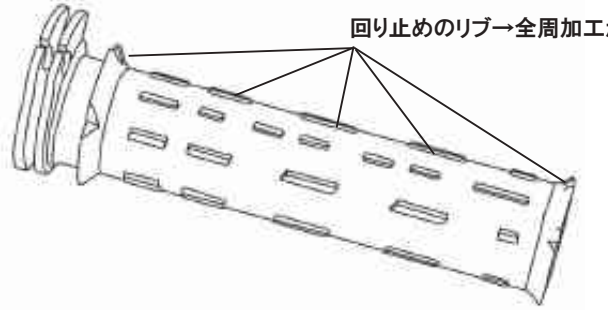
番号	部品番号	品名	HG115	HG120	HG125	金額
①	08T50-HAN-E01	グリップヒーター115 L側	1	ー	ー	¥4400税込
	08T50-HAN-E41	グリップヒーター120 L側	ー	1	ー	¥4400税込
	08T50-HAN-E51	グリップヒーター125 L側	ー	ー	1	¥4400税込
②	08T50-HAN-E11	グリップヒーター115 R側	1	ー	ー	¥4400税込
	08T50-HAN-E31	グリップヒーター120 R側	ー	1	ー	¥4400税込
	08T50-HAN-E61	グリップヒーター125 R側	ー	ー	1	¥4400税込
③	E08T51-HAN-T1	HGヒーター制御スイッチ	1	1	1	¥5500税込
④	08Z51-HAN-E01	メインハーネス	1	1	1	¥2200税込
⑤	E08T53-HAN-A1	ハンドルブラケットセット	1	1	1	¥1320税込
⑥	08T50-EWA-E0H	ｱﾙﾐﾃｰﾌﾟ ｸﾞﾘｯﾌﾟﾋｰﾀｰ用（6枚入り）	1	1	1	¥220税込
⑦	08T50-EWA-E0A	φ3.5オスギボシセット	2	2	2	各¥110税込
⑧	08T50-EWA-E0B	φ3.5メスギボシセット	2	2	2	各¥110税込
⑨	08T50-EWA-E0D	6mmアース端子	1	1	1	¥110税込
⑩	08T50-EWA-E0E	エレクトロタップ	2	2	2	各¥110税込
⑪	08T50-HAN-E21	グリップエンドキャップセット	1	1	1	¥1100税込
⑫	HYU4	グリップヒーター用ヒューズ	1	1	1	¥165税込
⑬	JPHAN530A01	グリップヒーターHG115	1	ー	ー	¥12980税込
	JPHAN530B01	グリップヒーターHG120	ー	1	ー	¥12980税込
	JPHAN530C01	グリップヒーターHG125	ー	ー	1	¥12980税込

※価格、品番等々は予告無く変更する場合がありますのでご了承ください。

2024.06.19

グリップヒーター装着について注意事項
※必ずお読みください

＜スロットルパイプの加工について＞
純正スロットルパイプは下図のようにグリップ回り止めのリブが立っています。そのためグリップヒーターの装着には、リブ加工する必要があります。ただし、リブを全部削り取ってしまうと削りすぎになるので、スロットルパイプの加工した部分の外径がφ26.0～ φ 25.6になるように加工してください。



ご自身で加工される場合、リブを削った後に一旦、接着剤は使用せずにグリップヒーターを差し込んで確認してください。手で差し込んでちょっときついくらいで、外そうとすれば外せるくらいならば、グリップヒーターのケーブルの角度、位置を確認し、接着剤を使用して取り付けしてください。
差し込みに苦労するくらいきつい場合は加工不足なので、**無理に押し込まず**再度加工してください。

※無理やり押し込んだ場合、途中で奥まで入らなくなってしまったり、ハンマーなどで叩き込んだりすると、グリップヒーターの破損に繋がりますので、絶対におやめください。
この場合、保証の対象外になり一切の保証ができませんのでご注意ください。

＜取り付けについて＞
グリップヒーターは簡単に抜けてしまうと大変危険なので、ハンドルやスロットルパイプとのクリアランスを小さくしています。そのため、組み付け時にはきつくて組み付けにくい場合があります。

・推奨取り付け方法・
グリップを取り付ける前に、グリップヒーターの説明書を参考にして配線加工を行い、電源が入る状態にします。電源をONにして、グリップヒーター自体をじっくり暖めてから、取り付けると幾分取り付けやすくなります。（**目安は3分程度で、これ以上暖めるとグリップヒーターの変形や破損する恐れがありますのでお止め下さい。特にスロットル側は厚みが薄いので、手で触ってほんのり暖まっている程度でおやめください。**）
このとき内側には接着剤を塗布しますが、熱で接着剤の成分が霧状になってしまう恐れがありますので、吸わないようにマスク等してから取り付けしてください。
また、パイプに差し込む時に途中で止めてしまうと接着剤でくっ付いてしまいます。途中でグリップヒーターを止めないようにくるくる回しながら差し込むとくっ付かないで取り付けできます。

※注意※
グリップヒーターを暖めるとかなり熱くなりますので火傷しないように注意してください。
また、暖め過ぎると変形、破損しますのでご注意ください。

・接着剤での取り付けについて・
付属のアルミシールではなく接着剤でがっちり接着したい場合には、**コニシ製ウルトラ多用途**などの耐熱性のある接着剤をご使用してください。その際にはすぐには接着されないので、使用した接着剤に記載されている硬化時間まで待ってから使用してください。

※注意してください※
グリップヒーターとハンドルバー（もしくはスロットルパイプ）のしめしろが、部品公差や加工具合によって変わることで接着力が弱くなる場合もありますので、走行前にはかならず接着されていることを確認してください。
もし、緩んでいる場合には、アルミシールを追加するなどして接着し直してからご使用してください。

＜Q&A＞
ご質問、お問い合わせを多くいただいている事例について、下記にてQ&A方式にして記載してありますので、お問い合わせいただく前に一度ご確認ください。

Q：事前にグリップを暖めたのに、右側（スロットル側）のグリップだけ硬くて入れにくい。
A：スロットルパイプには、グリップの回り止めのリブが表面に立っている場合が多いです。この場合には、加工が不十分だと考えられますので、グリップが入る部分全てのスロットルパイプの外径がφ26.0～φ25.6になるように加工してください。

Q：メーター部分の電圧表示が点滅していて暖まらない。
A：本商品のレギュレート機能が働いている可能性があります。バッテリー電圧より、レギュレート機能で設定している電圧が低くなっている場合には表示が点滅して、バッテリー保護のためヒーターが作動しません。レギュレート機能の設定電圧を低くするか、バッテリーを充電または交換してください。

Q：メーター部分の電圧表示がデタラメな表示をしていて暖まらない。
A1：グリップヒーターの電源を取っている部分が安定してバッテリー電源が供給されているか確認してください。専用ハーネスでの接続の場合、ちゃんとオプションカプラーに接続しているか確認してください。誤ってサービスチェックカプラ（赤）に接続した場合も同様に誤表示します。
A2：HIDなど高電圧ノイズが出る商品がついていませんか？本商品はデジタル制御しているため、ノイズを拾ってしまい誤表示してしまい、最悪の場合、本商品が破損します。

Q：左右のグリップで暖まりが違う。
A：左側はハンドルパイプ（金属）に直付けのため、熱がハンドルパイプに逃げやすいためです。右側はスロットルパイプに取り付けなので、熱が逃げにくくなっています。そのため、比較した場合、どうしても左側の暖まりが悪く感じてしまいます。

Q：片側（もしくは両方）がまったく暖まらない。バッテリー電圧よりかなり異なった電圧を表示している。
A：グリップヒーターの配線が断線している可能性があります。テスターをお持ちなら、グリップのカプラー内に見える端子間抵抗値を測定して9～10Ω 程度が正常値なので、断線していると全く違う抵抗値になります。この場合、グリップの交換になります。

Q：取り付けたグリップヒーターを外したい。
A：取り付けるときには緩まないように接着剤などを塗布しているため、外すことはできません。無理やり外そうとすると故障の原因になるのでお止めください。

Q：2台の車両に取り付けたが温まり方が違う。
A：車両のバッテリーの状態や容量、車両の発電量の違いによって温まり方が異なる可能性があります。また、グリップヒーターを接続している配線の場所によっても暖まり方が異なる可能性があります。

※デザイン及び仕様変更・価格等は予告なしに変更する場合がございます。
※弊社の取扱説明書等、十分ご確認の上ご使用ください。
※弊社商品以外の保証は一切お受けできませんのであらかじめご了承ください。
※本書やWEB上でのイラスト、写真等の記載内容が本商品と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

注意
1. 本商品のパーツリストをもとに部品をご確認してから商品の取り付けをお願いします。
2. 取り付け・調整が終りましたら、各部分のボルト・ナットの締め忘れが無いようにご注意ください。
3. 取り外した純正部品（ボルト等）は元に戻す際に必要になりますので、必ず保管してください。

有限会社エンデュランス　〒350-0822 埼玉県川越市山田1726　TEL 049-222-7770　FAX 049-226-1625
endurance-parts.com

2020.03.30

グリップヒーターHG　取り付けについて　JFCRC530A1

適合車種：CROSSCUB（JA10）

このたびは、本商品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用の前に、本書およびグリップヒーター本体の取扱説明書を必ずお読みいただき、
いつも手元に置いて、正しい取り扱い方法により永くご愛用くださるようお願い申し上げます。

⚠警告　※パッケージ、取扱説明書の注意事項や内容を無視してご使用し、重大な事故や損害が発生した場合でも弊社は賠償等の責は一切負いかねます。

●構成部品●

・専用スロットルパイプ、プラス用割り込みハーネス、アース線、取扱説明書

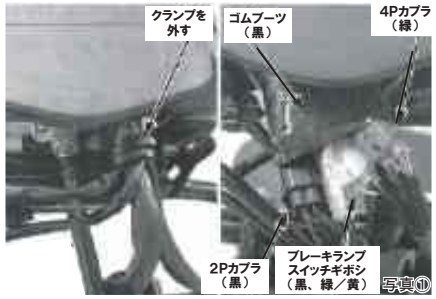
●接続する前に

グリップヒーターを接続する前に車両のサービスマニュアルを参考にしてセンターカバー、レッグシールドなどを取り外しておきます。
コンビネーションメーター裏の黒いゴムブーツ内に隠れているブレーキランプスイッチギボシ（黒）の位置を確認しておきます。（写真①）

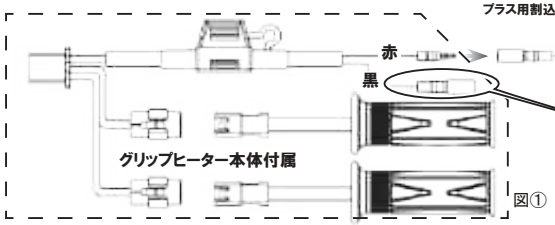
①配線の接続について（図①）

グリップヒーター側ハーネスのギボシ（赤）と割り込みハーネスのギボシを接続し、割り込みハーネスのギボシはブレーキランプスイッチのギボシ（黒）に割り込ませます（緑／黄のギボシには接続しないで下さい）。
グリップヒーター側ハーネスのアース線（黒）は付属しているアース線を使って写真②のように、バッテリーのマイナス端子に接続するか、フレームアースが取れるところに接続します。アースを取る部分が塗装されている場合には、塗装を剥がしてから確実にアースを取ってください。

このとき、ハーネスの接続のみで左右グリップ、スイッチはまだ接続しないでください。



写真①



図①

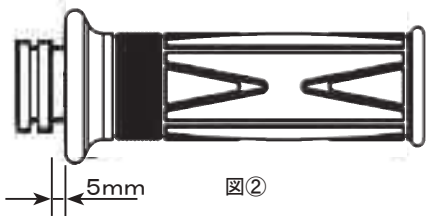

写真②

②左右グリップの取り付け

左右それぞれの純正グリップを取り外します。純正グリップが付いていたところに付着しているボンドをパーツクリーナーなどできれいに取り除きます。グリップヒーターの配線位置を間違えないようにグリップヒーターを差し込みます。このとき、グリップが手で触って暖かいくらいまで仮組みで暖めておくと差し込みやすくなります。
また、右グリップは下図のようにスロットルパイプとグリップ間が5MMくらいになるようにしてください。

⚠注意　左右のグリップ共にグリップから出ている配線の位置を確認してから取り付けしてください。また、右側はスロットルを回した時に配線には絶対負荷がかからないようにしてください。グリップから配線が出ている部分は弱く、断線して破損してしまう恐れがあります。

≪右グリップ≫



図②

グリップヒーター取り付け用 KIT

INSTRUCTIONS MANUAL　取扱説明書

●注意●

グリップヒーターを取り付ける際に、グリップヒーターのエンドをハンマーで叩いたり、グリップを強くねじったりしないでください。無理にグリップを押し込むと内部の熱線が断線してしまう恐れがありますので、絶対にしないでください。また、仮組みでグリップを暖める際に**1分以上**は暖めないでください。（**特に右側**）。内部が変形してしまい、熱線が出てきてしまう恐れがあります。

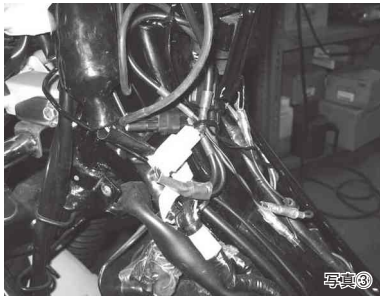
※右側グリップはスロットルを全開、全閉にしたときに、グリップから出ているケーブルに負荷がかからないように取り付けてください。
※必ず走行前にスロットルが正常に作動するかどうか手を離した状態でスロットルが確実に全閉まで戻ることを確認、点検を行ってください。

③カウルの加工と配線のまとめ

配線をまとめる前に、一度配線をすべて接続して、グリップヒーターの動作確認をします。問題なく温まったら、一旦配線を外します。
写真③、④を参考にして配線が通します。全てのカプラーを接続し、配線の長さが余っている部分はタイラップなどでうまくまとめて固定します。
→ハンドルを左右に動かしてハーネスに力がかかっていないか、ハンドル操作の邪魔になっていないか確認します。

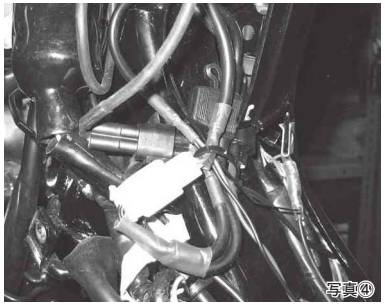
④スイッチ部の取り付け

両面テープを使ってハンドルパイプ用ステーに取り付けます。
このとき、ウインカーなどの操作の邪魔にならない位置に取り付けてください。


写真③

⑤取り付け完了

カウルを元に戻して取り付け完了です。


写真④

・グリップヒーター（スイッチ）の使い方はグリップヒーターの取扱説明書を参照してください。

※デザイン及び仕様変更・価格等は予告なしに変更する場合がございます。
※弊社の取扱説明書等、十分ご確認の上ご使用ください。
※弊社商品以外の保証は一切お受けできませんのであらかじめご了承ください。
※本書やWEB上でのイラスト、写真等の記載内容が本商品と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

有限会社エンデュランス　〒350-0822 埼玉県川越市山田1726　TEL 049-222-7770　FAX 049-226-1625
endurance-parts.com

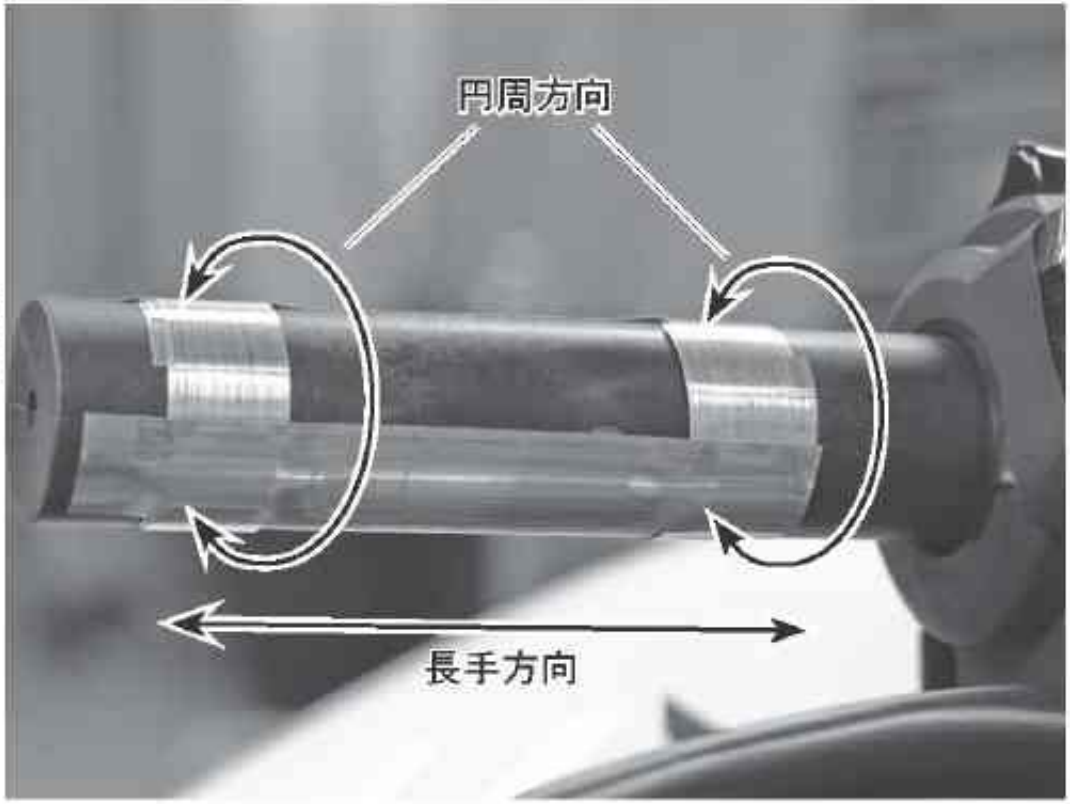
2021.10.25

グリップヒーターについて注意事項

※必ずお読み下さい

<スロットルパイプとのクリアランスについて>

スロットルパイプとのクリアランスが大きい場合があります。
このとき、写真のように円周方向に2カ所、付属のアルミテープを貼り付けて、残りのアルミテープで長手方向に貼り付けるようにして調整してください。
また、必要に応じて別売りの接着剤を使用してグリップの取り付けを行ってください。



・接着剤について・

接着剤は**コニシ製ウルトラ多用途**などの耐熱性のある接着剤をご使用してください。
その際にはすぐには接着されないので、使用した接着剤に記載されている硬化時間まで待ってから使用してください。

有限会社エンデュランス　〒350-0822 埼玉県川越市山田1726　TEL 049-222-7770　FAX 049-226-1625
www.endurance-parts.com/

2025.11.24